鳥取臨床科学 11(2), 69-75, 2019

精神科における急性期患者の自宅退院に向けての家族と看護師の視点の相違

大口弥峰 [1)]　原田浩一 [1)]　山本朋恵 [1)]　和田由貴子 [1)]　中川康江 [2)]
1）国立病院機構鳥取医療センター看護部 8 病棟
2）鳥取看護大学看護学部看護学科

Difference in viewpoints between family and nurses toward discharge home of the acute phase patients in the department of psychiatry

Miho Daiguchi[1)], Koh-ichi Harada[1)], Tomoe Yamamoto[1)],
Yukiko Wada[1)], Yasue Nakagawa[2)]
1) The 8th Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center
2) Department of Nursing, School of Nursing, Tottori College of Nursing

要旨

本研究は，受け持ち看護師と家族が，患者の退院に向けてどのような視点で患者を見ているのか，その視点に違いがあるのかを検討することを目的とした．今回，A 病院 B 病棟に入院中の患者 3 名のそれぞれの家族と，各患者の固定受け持ち看護師の計 6 名に対して，「患者の自宅退院に向けての思い・希望」について，半構造化面接を行った．その結果，患者の退院に向けての視点は，看護師と家族で違いがあることが分かった．看護師の退院に向けての視点は，【服薬管理】，【患者への支援】，【家族への支援】，【福祉サービス】，【病状・調子】の 5 つであった．一方，家族の退院に向けての視点は，【患者と一緒】，【患者への支援】，【環境の違い】，【福祉サービス】の 4 つであった．看護師は「家族の負担軽減」や「病棟の中で患者が行えていること」を視点としているのに対し，家族は「患者自身の行動変容や患者の意思尊重」や「自宅での患者の生活」を視点としていた．鳥取臨床科学 11(2), 69-75, 2019

Abstract

The objective of this study was to investigate viewpoints of attending nurse and family toward discharge of the patients, and whether there is a difference in their viewpoints. In this study, semi-structured interviews were conducted in a total of 6 individuals who were family members of 3 patients hospitalized in the Ward B of the Hospital A and their attending nurses. We asked them about “feelings and desires toward the patient’s discharge home.” The results showed, in terms of the patient’s discharge, that there were differences in viewpoints between the family and nurses. Five viewpoints which nurses had toward the patient’s discharge were “medication management,” “support for the patient,” “support for the family member,” “welfare services,” and “disease state/condition.” On the other hand, four viewpoints which the family members had were “togetherness with the patient,” “support for the patient,” “environmental difference,” and “welfare services.” Nurses had perspectives including ‘reduction of burden from the family’ and ‘what the patient can do in the ward,’ while the family

members had perspectives such as ‘the patient’s behavioral changes and respect for the patient’s will’ and ‘the patient’s life at home.’ Tottori J. Clin. Res. 11(2), 69-75, 2019

Key words: 退院支援, 自宅退院, 半構造化面接法 精神科急性期病棟, 家族と看護師の視点の相違; discharge support, discharge home, semi-structured interview, psychiatric acute ward, viewpoints of family and nurse

はじめに

日本の精神科治療は，長期入院に委ねられている現状がある．2015 年の精神保健福祉法制定では，精神科医療の地域移行を目的として掲げられており，早期からの退院支援が重要となって来ている．また，精神保健福祉法のもと，脱施設化が大きな目的として掲げられている．2002 年の診療報酬改定では，「精神科救急入院料」の引き上げに対して，「精神科療養病棟入院料 2」の引き下げが行われ，短期入院傾向が促進されることとなった．さらに，「精神科救急入院料」の算定用件は，入院から 90 日間であり，90 日間に集中的に治療を行い，退院していくという医療の流れが定着しつつある．

A 病院 B 病棟でも，退院促進を病棟目標の１つとして掲げ，入院期間が 90 日間を目標に，入院早期から，患者・家族に向けた退院支援を積極的に行っている．退院支援は，患者や家族と面接を繰り返し行い，家族を支える様々な医療福祉関係者との連携やカンファレンスを行いながら支援している．とくに，自宅退院に向かう患者の場合，患者の生活の質は患者を支える家族の協力に左右されることも少なくない．

A 病院 B 病棟で患者の退院を目指し家族と関わる中で，同じ退院という目的に向かっているが，看護師は治療について，家族は入院前の患者の様子について話すことが多く，視点の違いに戸惑いを感じることがあった．しかし，実際に受け持ち看護師と家族が患者の退院に向けてどのような視点で患者を見ているのかを把握し，比較したことはなかった．

今回の研究で，受け持ち看護師と家族が患者の退院に向けてどのような視点で患者を見ているのか，その視点を明らかにし，実際に看護師と家族とで視点に違いがあるのかを分析検討したので報告する．

用語の定義

家族: 本研究では，家族を「自宅退院を目指す患者の家族，退院後患者と一緒に生活する家族，又は患者との関わりが必要な家族．入院中に患者の面会に来る家族」とした．

I. 研究目的

受け持ち看護師と家族が患者の退院に向けてどのような視点で患者を見ているのか，その視点に違いがあるのかを検討する．

II. 研究方法

1. 研究対象

看護研究の説明に同意を得ることができた患者 3 名の家族と，その患者の固定受け持ち看護師，計 6 名とした．

2. 研究期間

20XX 年 7 月 12 日から 20XX 年 3 月 31 日まで．

3. 研究場所

A 病院 B 病棟．

4. データの収集方法

1) 面接場所は，プライバシーを保てる B 病棟の個室で実施した．
2) 面接日は，研究メンバーが対象家族・対象固定受け持ち看護師と相談し，決定した．
3) 半構造化面接を行った．面接内容は，インタビューガイドを使用し，「患者の入院に対しての印象や退院時患者がどのような身体状態・精